

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アバンツァレスポーツ 名取		
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 35
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2025年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	サッカー支援プログラムを基に支援を行っている。	従業員研修を行い、運動が苦手な子にも楽しいと感じられるようなプログラムや支援方法を学んで支援に役立てている。	個別支援計画作成時の利用者のニーズに合わせて支援できるように、研修を重ね職員一人一人の意識やスキルを高めていく。
2	体験型イベント開催を多く行っている。	法人内の事業所(宮城県内)を集めてサッカーフェスティバル開催や、事業所独自のお出かけや料理体験などの活動を増やし、様々な体験をすることで自信をつけていけるように支援している。	これからも新しい体験型イベントを開催できるように情報を集めていく。
3	学校での勤務経験がある従業員がいるので、学校生活への適応、子育て全般についての相談に対応することができる。	子どもの困り感、生活上必要な社会性の向上に向けて、保護者からの相談等に親身になって対応している。成長段階に合わせてアドバイスができるように研修で学びを深めている。	自己研鑽を積みながら、すべての従業員が同じ視点で支援できるように、情報共有を徹底する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者や地域交流が少ない。	コロナ・インフルエンザなどの流行等もあるので、開催をためらう時期もあった。保護者参加型のイベントを企画して、交流を進めていきたい。	保護者との交流イベントとして親子サッカーを開催予定。地域の高校や大学などとも交流できるようにしていきたい。
2	療育中に、気持ちを崩してしまったときに、一人になって落ち着ける場所(クールダウン)が少なく、最適な環境を作ることができなかった。	多機能型で活動スペースが限られてしまうことがある。共有スペースをうまく活用できなかった。	共有スペースを区切るなどして、子に合わせた対応ができるように環境を作っていく。
3	従業員の支援力に差がある。同じ対応ができるように研修を行っているが、まだ経験不足もあり対応に差が出てしまう。	児童指導員としてのスキルに差がある。利用者の障がい特性の理解が不十分。保護者の立場で考えることができていない。	利用者の障がい特性を理解する研修をもっと行う。支援の振り返りの場面で、よりよい支援、声かけの仕方などをふり帰り研鑽を積んでいく。利用者の特性だけでなく、家族環境なども情報を共有し、家族に対しても支援できるように研修を積んでいく。